



**PRINCELY  
TREASURES  
FROM THE  
HOUSE OF  
LIECHTENSTEIN**  
シンガポール国立博物館  
地下展示室  
9月29日まで  
10am-6pm 毎日  
入館料：10シンガポ  
ールドル  
nationalmuseum.sg

## リヒテンシュタイン侯爵家の秘宝

世界的な美術コレクターとして有名なリヒテンシュタイン家のコレクション展が、今シンガポールの国立博物館で開催中である。ハプスブルク家の寵臣として侯爵の爵位を得たリヒテンシュタイン家は次々と領土を増やし、遂には1719年にリヒテンシュタイン侯国が誕生。一家は主にウィーンに拠点を置いたが、18世紀初頭ウィーン郊外のロツサウに建てられた「夏の離宮」は、リヒテンシュタイン家の栄華を象徴するような美術品のコレクションを公開していることで知られる。ため息の出るような秘宝の数々、当代随一の技と材料を駆使した調度品。シンガポール国立博物館は、これら美術品の演出に、絢爛豪華な「夏の離宮」とは真反対の、黒でまとめたシックでミニマリズムなバックを起用した。

世界的に有名なその秘宝のコレクションは、しかし海外で展示されるチャンスは今までに数えるほどしかなかった。世界屈指のルーベンスのコレクションを始め、ルネサンス、バロック、新古典主義、19世紀のロマン主義まで珠玉の西洋絵画が圧倒的な存在感で展示されている。

展示会場の入り口は、あたかも夏の離宮に招かれたかのように、華麗な城の内部の実物大の写真が入館者を迎える。マイテンスによるマリア・テレジアの肖像などに続いて、コンソール付きの振り子時計や、貴石象嵌のテーブルなど銀製の調度品、さらに中国や日本の陶磁器がショーケースで展示されている他、見事な細工を駆使した貴石象嵌のチェストが中央にどっしりと置

かれている。その「クストカンマー(美と技の部屋)」を抜けるといよいよ美術ファンには垂涎の西洋絵画コレクションがお待ちかねだ。

ルネサンスを代表するラファエッロの「男の肖像」(写真左上)、バロック時代上流階級に圧倒的に人気のあった肖像画家ヴァンダイクによる「マリア・デ・タシスの肖像」、超写実的な描写で新古典主義の新風を吹き込んだヴァルトミュラーの静物画(写真右上)、そしてルーベンスの傑作「クララ・セレーナ・ルーベンスの肖像」、「マルスとレア・シルヴィア」などがそれぞれの時代ごとに展示されている。時代とともに画風もテーマもモデルも変遷してく様を比べるのは楽しい。その中で、ひとときわんだけかりがする絵画があった。ロマン派フランチェスコ・アイエツによる「復習の誓い」。ベニスのバックドロップを背景に二人の女性(マリアとレイチェル)が対照的な表情を見せるこの傑作は、未出版に終わったアンドレア・マッフェイの小説にインスパイアされて描かれたとされている。レイチェルがマリアに彼女の恋人が浮気をしていることを知らせるシーンで、ロマンチズムと官能、恋人の裏切りに怒りと悲しみをたぎらせた女の感情を見事に描写し人々の琴線に触れる。ずっと観ていたい、と思う人が多いのか絵の前にはベンチが置かれていた。

日本の美術館よりずっとゆっくり、リラックスして心行くまで鑑賞できるのがこの博物館のいいところ。日本で見逃した方、こちらでごゆっくりご覧ください。■